



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年2月12日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



迫る

方言で続ける「言葉遊び」

12日(日)=1、3面

地方出身であることをアピールするタレントや芸人らがテレビなどで活躍していますが、かつて地方の人々は、都会で方言を話すことを避けた時代がありました。

伊奈かつぺいさん=写真=は、地方の人が方言を隠すことが多かった頃

から、故郷の津軽弁を使った軽妙なトークで笑いを取り、テレビやラジオなどで活躍しました。

「誰も使っていないから方言を使うんだ」という自負があったと言います。

方言の魅力に気づかされたのは、中学生の時、郷土の方言詩人の本を手

に取ったことがきっかけでした。

また、早すぎる両親の死が、方言を取り入れた笑いの道に進むことに影響したとも明かします。75歳になっても現役で方言を使った「言葉遊び」を続けるかつぺいさんの心境に迫ります。

論点

同性婚を当事者に聞く

15日(水)=オピニオン面

元首相秘書官が同性婚の法制化を巡ってLGBTQなどの性的少数者への差別発言をし、岸田文雄首相は衆院予算委員会で謝罪しました=写真=

「多様性のある社会を目指す」としてきた

政府はこの問題の深刻さをどこまで認識しているのでしょうか。性的少数者への差別解消にどこまで真剣に取り組もうとしているのでしょうか。

当事者である2人に聞きました。



空いた物件が目立つモスクワの大通り
=1月25日撮影



出口なき戦争 苦悩するロシア市民

15日(水) || 1、3面

24日でウクライナ侵攻開始から1年となるのを前に、戦争の実情を描くルポ・シリーズ「ウクライナ侵攻1年 出口なき戦争」。今回の取材対象は「戦時下のロシア市民たちです。プーチン政権の抑圧の中でも」

侵攻反対の意思を示そうとする人、政権が流す情報だけを信じる人、国外に脱出した人……。市井のロシア人は今、何を考えているのか。その思いに迫ります。

特集ワイド

「風の谷」構想

14日(火)=夕刊特集ワイド

慶応大教授の安宅和人さん=写真=が提唱する「風の谷」という名の構想があります。自然の中で暮らす未来の一つの生き方で、宮崎駿監督の映画「風の谷のナウシカ」に現れる原風景をイメージし

て名付けられました。安宅さんは「都市しかない未来が本当に嫌なんです。そんな残念な姿にせず、選択肢を残したい」と語っています。限界集落が増える日本での試みをインタビューで紹介します。



竹橋の窓はかい

編集後記

「伝えるって、つなぐことだと思おう。」と毎日新聞のテレビCMで力強くメッセージを発してくれている俳優のんさんが、今度はオンラインイベントに登場します。

2月21日午後6時半から、2013年のNHK連続テレビ小説「あまちゃん」で共演した渡辺えりさんと東日本大震災をテーマに語り合います。収益は震災遺児支援に全額寄付します。ぜひ、ご視聴ください。(千代崎聖史)

